

アカデミック・スキルズにかかる学習支援の実践報告

池田佳奈子*1・當間亜紀子*2・廣田知子*2・桑名杏奈*1
Email: ikeda.kanako@ocha.ac.jp

*1: お茶の水女子大学 リーディング大学院推進センター
*2: お茶の水女子大学 情報基盤センター

◎Key Words ラーニング・コモンズ, 学習支援, 情報教育支援

1. はじめに

2012年12月、文部科学省は科学技術・学術審議会(大学図書館の整備について—変革する大学にあって求められる大学図書館像—)の中で、ラーニング・コモンズの定義として以下のように述べている。

「複数の学生が集まって、電子情報も印刷物も含めた様々な情報資源から得られる情報を用いて議論を進めていく学習スタイルを可能にする『場』を提供するもの。その際、コンピュータ設備や印刷物を提供するだけでなく、それらを使った学生の自学自習を支援する図書館職員によるサービスも提供する⁽¹⁾」

お茶の水女子大学では2007年4月、「学生が学習のために集う共有の場」として附属図書館1階に「ラーニング・コモンズ」が設置された⁽²⁾。コンピュータと周辺機器が設置されたスペースに「ラーニング・コモンズ」という名称が付けられている。図書館1階には他にも、自由に移動・組み合わせが可能な机や椅子を配備した「キャリアカフェ」、新聞・雑誌、ソファや机のある「ラウンジ」がある。ラウンジにはピアノがあり、本学音楽表現コースの学生等による演奏会も開かれている⁽³⁾。文部科学省の定義に従えば、それらすべてを含めて「ラーニング・コモンズ」的な「場」を提供しているといえる。本稿では、学生の自学自習を支援するサービスの一つである「ラーニング・アドバイザー」について、ラーニング・コモンズの機器管理を担う情報基盤センターの立場から、発足以降の変遷と現状を述べる。なお、以下ではラーニング・コモンズ(Learning Commons)を「LC」、ラーニング・アドバイザー(Learning Adviser)を「LA」と略記する。

2. ラーニング・アドバイザー制度の変遷

2.1 非常駐の「管理員」時代

1990年代、学内の情報機器の整備に伴い、学内の端末室にて機器管理や清掃を行う大学院生のアルバイトが発足した。発足当時は週に数日、不定期に端末室を見回り、不調端末がないかどうかのチェックや、清掃などを行っていた。端末室の利用者が増えるにつれて管理員の需要も高まり、見回りの回数も増加していった。

2.2 常駐の「管理員」時代

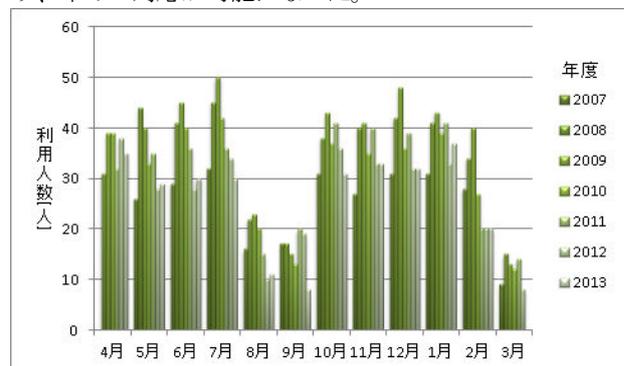
2004年度から管理員が端末室に常駐し、機器のトラブルにすぐに対応できるようになった。機器の管理だけでなく、利用者からのコンピュータや周辺機器に関

する質問にも答えるようになった。

2.3 「ラーニング・アドバイザー」時代

2007年4月、LCの設立にともなって、サポートスタッフとしての意味を込めて「ラーニング・アドバイザー」に改称された⁽⁴⁾。2008年度以降は、平日の図書館が開館している間(授業期間中は9:00~21:00、休業中は9:00~17:00)常駐するようになった。主な仕事内容は、利用者の支援(質問対応)と情報機器の管理である。利用者のITスキルは幅広く、質問は多岐にわたる。たとえば、電源の入切やログインログアウトの仕方を含めたコンピュータの基本的な操作方法から、印刷やコピー、スキャナなどLC設置の機器の操作方法、Microsoft Officeやブラウザなどソフトウェアの使い方、大学発行のメールアドレスに関すること、ウェブメールへのログイン方法・送受信方法・他のメールアドレスへの転送方法、LCの端末に設置されているヘッドホンの音量設定、SDカードの読み込み、USBメモリの取り扱いなど周辺機器に関すること、ノートパソコンを学内のネットワークに接続する方法などが挙げられる。

情報機器の管理としては、印刷・コピーができる複合機用の紙補給・トナー交換、USB接続のカードリーダーやDVDドライブなど周辺機器の貸し出しを行ってきた。あわせて、設置機器に不具合が発生した場合、情報基盤センターに報告を行った。情報基盤センターの少人数の教職員だけではLCの多種多様・多量な情報機器の維持管理は難しかったため、LAからの報告により、早めの対応が可能になった。



(15:00時点の利用者人数の、月ごとの平均値)

図1 LC利用者数変遷

図1に毎日15:00時点のLCの利用者数を月ごとに平均したものを示す。LCの設立以降、LCが周知されるに伴い、また機器の充実に伴って、利用者数は徐々に

増加している。2010 年度をピークに減少しているが、これは 2011 年度から種々のノートパソコンの貸し出しサービス⁶⁾が始まったためと考えられる。PC 自動貸出ロッカーの設置や、中長期にわたってノートパソコンを貸し出すことで、利用者が LC に留まらず幅広い形態で情報機器を利用するようになったといえる。

2.4 「LALA」時代

LA は文科省特別経費プロジェクト「学生主体の新しい学士課程の創成⁶⁾」の支援を受けて運営されていたが、プロジェクトの終了に伴い、LA も 2013 年度をもって終了した⁷⁾。2014 年度からは、情報機器のサポートだけでなく、文献の調べ方やレポートの書き方などを含んだ総合的な学習サポートを行う「LALA (Library Academic Learning Adviser)」が発足した。次項で詳しく述べる。

3. 現在の取り組み

3.1 LALA

本学の大学院生を掲示やウェブページなどで公募し、2014 年 4 月から 11 名体制でスタートした⁸⁾。4 月以降、図書館スタッフや本学の教員が講師として立つ「図書館情報探索講習会」「論文の技法」「ライティング支援」等のトレーニングプログラムが開講されている。LC の掲示板には在籍中の LALA の専攻が明記されており、学生は自分の専攻に近い LALA の在席時間を選択して質問することができるため、より効率的な学習支援につながると考えられる。

運営の主体は情報基盤センターから図書館に移行した。今年度は初年度であり、新たに採用された LALA は 1 名を除き LA 未経験者であったため、情報機器に関する研修は情報基盤センターのスタッフが各 LALA の初回勤務時に 1 コマ (3 時間) のうちの 2~3 時間、マンツーマンで現場研修を行った。研修の具体的な内容は、LC に設置されている情報機器の操作方法、勤務内容 (清掃など) についての説明 (図書館職員が説明してくれた日もある)、LALA 同士・図書館職員・情報基盤センター間の情報共有のための作業報告 (Moodle を利用) の書き方の説明、どんな質問が多いのかと、それら質問への対応方法の説明 (メールアカウントや統合認証のための「お茶大アカウント」それぞれのパスワードの変更方法、ファイルが開けない等のトラブル、LC に設置されている端末での印刷の方法など)、実際に質問にきた利用者への対応の補助などである。

3.2 情報基盤センターパソコン相談担当

情報機器、特に学生私物のノートパソコンの管理と活用に対するサポートとして、「パソコン活用室」の後を受けて 2014 年度より「情報基盤センターパソコン相談担当」がスタートした⁹⁾。主に学部 1 年生の希望者に対して、セキュリティに関する基本的な説明と、学生私物のノートパソコンに対するセキュリティ対策ソフト・インストールの支援、学内のネットワークへの接続の支援などを行っている。さらに、希望者には無線 LAN 「eduroam¹⁰⁾」への接続や、私物のパソコンから LC に設置されているプリンタに出力するための設定

のサポートも行っている。4 月中の昼休みや授業の終わった夕方以降、各回最大で 20 名程度の講習会を行った。5 月以降は、ノートパソコンに関する全般的な質問・トラブルに対して個別に対応している。また、希望者に対してはノートパソコンの貸出しも行っている (セキュリティ入門講習を受講済みの者に限る)。現時点での実績は表 1 のとおりである。

表 1 支援対象人数 (6 月 12 日現在)

	人数	新入生全体(484名)に対する割合
セキュリティ入門講習受講者	306 人	63%
ウイルス対策ソフトをインストールした者	255 人	53%
ノートパソコン貸出	37 人	7.6%

4. おわりに

本稿では 7 年間続いた LA 制度の終了に伴い、それ以前 (管理員時代) からの変遷と新しい制度 (LALA・パソコン相談担当) への移行、現状を述べた。

LALA に関しては、現職の図書館員や日頃学生に対して論文指導を行っている教授によるトレーニングプログラムが用意され、アカデミックスキルに関わる総合的な支援が充実することが期待される。

パソコン相談担当に関しては、情報機器に関する質問やトラブルに対しては、基本的に個別対応を行っているが、内容によっては解決までに時間を要することがある。ある程度マニュアル化しているとはいえ、コンピュータの機種や OS、バージョンが多岐にわたるため、個別対応せざるをえないのが現状である。トラブル対応の人員不足の解決が今後の課題といえる。

謝辞

LALA の情報機器に関する研修にあたった廣田知子さん (情報基盤センター) に、研修内容についてお話し頂きました。ここに感謝の意を表します。

参考文献

- (1) http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/attach/1301655.htm (2014 年 6 月 9 日参照)
- (2) 餌取直子, 茂出木理子: "お茶の水女子大学附属図書館における学習・教育支援サービスのチャレンジ: 図書館の学習・教育支援サービスに限界はない", 大学図書館研究, 83, pp.11-18 (2008)
- (3) <http://www.lib.ocha.ac.jp/concert.html> (2014 年 6 月 12 日参照)
- (4) 茂手木理子: "幸せな図書館のつくりかた", 京都大学図書館機構 講演会 (2009)
- (5) 笹倉理子, 浅本紀子: "学生生活の支援としての PC 貸出サービス", 2012 PC Conference (2012)
- (6) <http://www.ocha.ac.jp/nsep/home/> (2014 年 6 月 11 日参照)
- (7) 池田佳奈子, 當間亜紀子, 桑名杏奈: "ラーニング・コモンズにおける学生支援(3): ラーニング・アドバイザー制度の概観", 高等教育と学生支援 -お茶の水女子大学教育機構 紀要-, 4, pp.50-53 (2013)
- (8) <http://ochadailisa.blog32.fc2.com/blog-category-9.html> (2014 年 6 月 11 日参照)
- (9) <http://www.cf.ocha.ac.jp/panda/> (2014 年 6 月 11 日参照)
- (10) <http://www.eduroam.jp/> (2014 年 6 月 15 日参照)